

AIエージェントが拓く科学研究の未来：自律性から「検証可能性」の時代へ

科学用AIは、単機能の支援ツールから、文献調査から実験計画、解析までを連続的に行う「研究ワークフロー型エージェント」へと進化しています。一方で、現在のAIエージェントの独力解決率は3割程度に留まっており、単なる「自律化」ではなく、証拠連鎖や人間による承認を含む「検証可能性」を備えたシステム設計が今後の核心となります。

1. AIエージェントの現在地と主要事例



先駆的な4つのAIエージェント

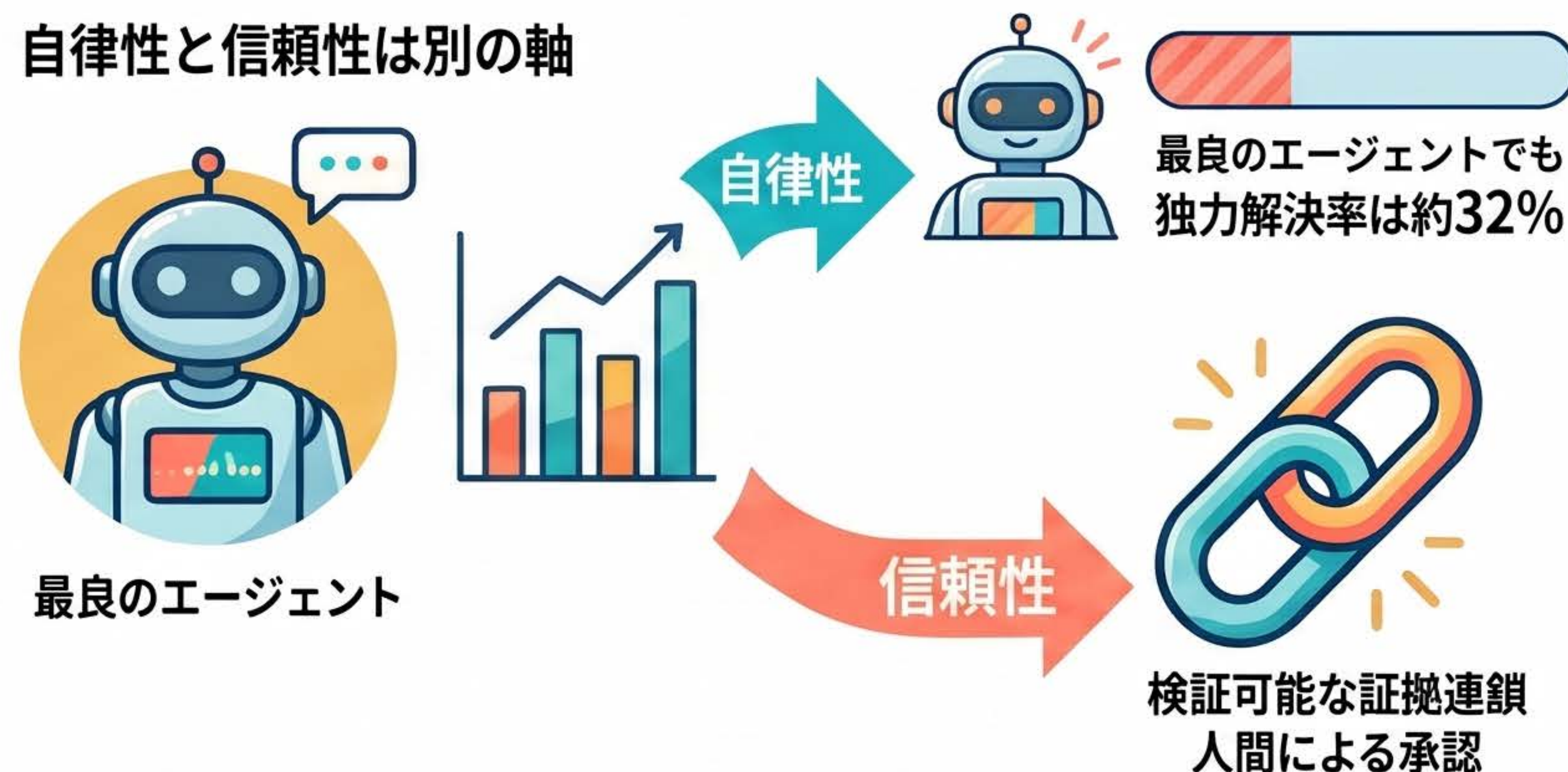


主要なAIエージェントの特性と限界



2. 信頼性の確保と日本の国家戦略

自律性と信頼性は別の軸



日本の戦略投資「ARiSE」



「検証可能性」競争へのシフト

